

協議結果

次の協議会を下記のとおり開催した。

名称	第 3 回益田市地域公共交通活性化協議会
開催日時	令和 7 年 8 月 22 日（金）14：00～15：10
開催場所	益田市役所 大会議室
出席者	○出席者 [益田市地域公共交通活性化協議会委員] 波田正博会長、渡辺健一委員、藤原政志委員代理、庄司彰委員代理、堀本稔委員、齋藤晃信委員代理、高木俊輔委員、澤江佑三委員、岡本堂里委員、村岡宙委員、佐藤伸廣委員、岡崎朝子委員、小原静伍委員、山本宏史委員、齋藤慎哉委員、佐川賢一委員代理、丸山武委員代理、藤田敦史委員、松本徹委員、中島克仁委員、高倉大委員、橋本秀治委員代理、藤本美香委員、和崎幹弘委員 [事務局] 政策企画局 長嶺局長 交通対策課 宅野課長、千振課長補佐、三上副主任主事 ○欠席者 [益田市地域公共交通活性化協議会委員] 山岡索委員、加藤博和委員、天野克之委員、三浦康広委員 [オブザーバー] 加藤博和氏
議事	都茂線等の令和 7 年 1 0 月 1 日以降の運行について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	2 名
問合せ先	政策企画局交通対策課 電話 0856-31-1050

協議経過

1. 開会
2. 報告・協議事項
（１）第 2 回協議会以降の経過について
事務局から、令和 7 年 7 月 2 5 日に開催した第 2 回協議会以降の経過について説明。
（２）都茂線等の令和 7 年 1 0 月 1 日以降の運行について
①令和 7 年 1 0 月 1 日以降の都茂線運行案について
○（１）令和 7 年 1 0 月 1 日以降の都茂線運行案について 資料 1

・事務局から、路線バス都茂線に代わる代替交通の運行案について説明。	
②路線バス都茂線廃止に伴う乗合タクシーの運行変更について	
○(2) 路線バス「都茂線」廃止に伴う乗合タクシーの運行変更について 資料2 ○乗合タクシー「真砂線」運行変更案 資料2-① ○乗合タクシー「栃山・岩倉線」運行変更案 資料2-② ○美都地区乗合タクシー運行変更案 資料2-③ ・事務局から、路線バス都茂線の沿線地区にて運行している乗合タクシーの変更案について説明。	
【質疑応答】	
会長	本日、今回の運行案に直接関係をする、二川、真砂、それから豊川地区の、住民代表の皆さん、それぞれ出席をしておられますので、最初にお三方より、ご発言があればお願いしたいと思いますが、いかがでございましょうか。
委員	私はこの会議については、2回目でございます、それまでの細かい経緯というのが、分からないところがありますので、その辺は少し置いといて、第1回目の説明会と第2回の説明会に出席をさせていただいたときの雰囲気、地域の皆さんの様子をお伝えして、挨拶といえますか、お話にかえさせていただこうと思うんですけども。 感じた様子では皆さん当面、これで受け入れてやってみようという雰囲気の感じを持っておられます。そんな感じでおります。 ただ大きな、質疑、質問とか意見ありましたけども、大きな反対というよりは、とりあえずここでやってみようという感じの雰囲気になってるんじゃないかなというふうに思っております。 ただ、皆さんが心配されるのは、やってみたけども、というところがこれから発生すると思いますので、そのあたりを今後、ぜひ事務局の方もおっしゃっておられましたけども、継続的に検証するなりして、より良いものにしていけるようにやっていただくことをお願いしたいというふうに思ってます。以上です。
委員	二川地区での、3回の話し合いに出席させていただきました。 また美都町内の自治会でもこの話を、それぞれ出た意見というのを共有して、話をさせていただきました。 その中で2点ほどご要望を申し上げさせていただきます。 1点、益田駅までの乗継なしで行けることについて、ご要望がたくさん出ております。理由としては、やっぱり高齢ですので、とにかくトイレが近い方が多くございます。その方が、途中で、例えば久々茂あたりで用を足されたとしても、そのあたりが、ゆっくりとトイレができる、益田駅で待ち会いができるような感じであってほしいと、直接行けるようなことを要望されておられました。あと、様々な病院に行かれますので、そのアクセスとなる、日赤だけじゃない病院に行くためにやっぱり益田駅まで、乗継なしでいきたいというご要望。

	また、観光の件で、美都温泉はもちろんですけども、石号の里、また益田市立宿泊交流センター、こちらの方へも、交通事業者さんを使つての利用という実績がありますので、その辺りも含めて、益田駅から、直接乗継なしで行ける方がよろしい、というふうな意見をいただいております。 もう1点、バス停のことでございます。もちろん交通事業者さんの設置物でございますので、無理は申し上げられませんが、これまで自治会、住民の方で、維持管理、掃除、周りの剪定などしてきたということを伺っております。愛着もありますので、日陰、また、冬は寒いですし、そのあたりのしのぐ場所というので、引き続き使わせてもらえないだろうかという要望を伺っております。以上2点でございます。 美都町の住民にとって、交通事業者さんが、通学から通院まで、様々な面で生活を支えてきていただいておりますし、これからも、また違った面でいろんな利用をさせていただき、そうしなければ生きていけないような、地域であろうかなと思っております。 とりあえずやってみるということでもありますけども、また、これからも様々ご協議をいただきまして、より長く美都町で住めるような仕組みを作っていただけたら、ご協力いただけたらと思っておりますので、以上要望としまして、2点ほど出させていただきました。ありがとうございました。
委員	真砂地区で行われました、住民ワークショップ、それから住民説明会に出席させていただきました。その中で、真砂線が廃止になってから、真砂の方はもう、デマンド交通に切り替わっておりまして、今、久々茂中で乗換をして、都茂線に乗って、市内に出ておりましたが、都茂線が廃止になることに対して、代替案を市の方で示していただいて、議論をしてきました。概ね、行きたいところに行ける状態ではあったので、それに対して反対とか、特段の意見と言うのは出ませんでした。ワークショップの段階では、先ほど、都茂の方でもご意見があったように、益田駅まで出られるようなことにはならないか、というような意見はあったんですけど、本社前までは行けるという事に対して、それで了解を、納得を得たというような状況です。
事務局	ありがとうございます。 豊川の委員さんからありますが、まず、この案でやってみて、利用者の皆さんからの声や、利用の実績等を考慮して、できるところから改善を図って参りたいと考えております。 次に、目的地ですが、これまでも各沿線地域から、駅まで、または日赤まで直接乗り継ぎなしで行けるように、というお声が大変多く出ていますので、この代替案が運行されたとして、その後も継続的に協議を重ねながら、可能な部分から、利便性の向上を図っていきたいと考えております。 バス停、待合所につきましても、すべて使えないということではございませんので、使えるものは当然、使っていただいて、所有でないものにつきましても、交通事業者さんと協議

	をさせていただければと思っております。 真砂からの意見につきましても、これも駅までということではありますが、ワークショップ等でも、当然駅まで、日赤までというお声がありましたので、先ほど同様、継続して改善に努めたいというふうに思っております。
委員	都茂線を廃止させていただくということで、去年のちょうど今頃、7月8日に、益田市様に、都茂線の廃止について、お知らせをさせていただきました。市長の答えとしまして、「廃止する路線については、大きな影響のないように検討する」というお答えをいただいたので、私どもも、廃止という方向にさせていただきました。 先ほど住民説明会の中で、皆さん概ねこれでやってみようというようなことで、ご了承したのか、分からないところもあるんですけど、私は、今まで16便やらせていただいている中で、住民生活に大きな影響がないという回答に対して、の答えになってないような気がしています。 やはりまずは、今までどおりの運行に近いものをして、皆さんの利便性がよい中で、減便とかっていうのを検討していくのが、市長の言う、大きな影響のないような運行、になるんじゃないかと思っておりますし、私どももそういったお返事をいただいたので、やめさせていただいたところもあるので、もう少し、考えてやらないと、匹見のこともあると思いますので。 もうちょっと良いダイヤだとか、良い便数っていうのが必要なんじゃないかと思います。以上です。
事務局	今現在、設定を予定しているこの代替案につきましては、先ほども申しましたが、これまでの利用状況や、乗降調査、住民からのご意見等を踏まえ、最低限のところで設定をさせていただいているという認識です。 ですので、今後、皆さんのお声をお聞きしながら、利用状況等も踏まえ、利便性の向上を図って参りたいと考えております。
委員	匹見は、ちょっと早め、3月から、今回の都茂線と同じような形で、乗合タクシーが始まっています。始まる前に、住民説明会等もしていただいて、皆さん最初はなくなることにすごく不安で、いろんな意見が出て、だけど、匹見のときはもう廃止っていうところが前提であつたので、どうすることもできないっていうことで、とりあえずは、全くなくなるのは困るからということで、9人乗りの乗合タクシーで始まりました。 私は、この平面、文章上のダイヤの流れで、数字を見るだけではなかなか理解できないっていうところがあつたので、実際に乗ってみました。私はその日に予定があつて、朝出て昼便で帰ったんですけど、あともう2人一緒に匹見から乗って出て、残りの2名の方は、最後の、夕方の便で帰ってこられました。 実際、利用してみた感想というのが、普段やっぱり車社会で、私たちも車で目的地につい

	て、用事をしたら帰るっていうその利便性に慣れているので、まず乗合タクシーに乗るっていうことに抵抗がありました。分かっている道なんですけど、いざ乗るとなるとすごく不安で、どういうふうに乗って、どういうふうに運転手さんに伝えたらいいんだろうとか、益田養護学校での乗り換えのときも、知っている場所なんですけど、本当にこれに乗ったら駅に行けるんだろうとか、医師会まで行ける便なのかなっていう、その確信がないので、すごく不安でした。ただ安心だったのは、実際に毎回それを利用されている利用者さんが一緒に乗ってくださっていて、その方が実際どういうふうに活用されているかっていうことも、乗りながら話を聞きました。その方はいつも日赤を利用するのに、朝行ったら、調剤薬局が間に合えば昼便に乗って帰れるけど、調剤の時間がずれたら、夕方まで待って、それに乗って帰らないといけない、と言われました。当日は、昼便で間に合って、私が益田駅で乗るときにその方がおられたことすごーい安心感があつたんです。この方がおられるから、この便に乗ったら匹見にちゃんと帰れるっていう、安心感がありました。小さなこの益田市内っていうところでも、利用してない私たちはすごく、知ってないなっていうのを感じました。 利用されている方は、やっぱりこの匹見の方で、乗合タクシーに変わって、皆さん、今は、これがあつて良かったってすごく言われます。本当に今現在、便は減ったけど、でもやっぱりないよりもあつてよかった。 利用する中で、交通対策課の皆さんも、個人個人、利用者さんに意見を聞いてくださったりして、やっぱり聞いてくださることが、今現在利用している方にとってはすごく、ありがたいというか、嬉しいことで、実際利用されている方の声を聞いて、さらに改善するというのが大事なんだというのを、今回、自分が利用して、改めて思いました。 利用したことで、病院だけじゃなくて、普段車を利用している方も、もっともっとバスや乗合タクシーを利用して、例えばちょっと時間の、気持ちのゆとりを持つっていう。今日はバスで出て、益田市内でお茶して、ゆっくり、楽しんで帰ろうかという、ゆとりある生活を送ることも必要なんだなって思って、以外とバス停の近くに、思いもかけない喫茶店があつたりとか、そういう新たな発見をしたので、目線を変えて、地域公共交通を使うってことがすごく大事なのかなっていうのを、自分も利用させてもらって、改めて感じました。長くなりましたが、以上です。
3. その他	
委員	この会議は地域公共交通活性化協議会ということで、少しお話をさせていただきたいと思います。 この件は都茂線、匹見線の廃止に至った経緯というのは前回の協議会でもお話をさせていただきましたが、令和6年の6月に、島根県さんによって、補助制度の改善を、各市町さんに呼びかけていただきました。その中で益田市さんだけが条件をつけてこられて、うちの方としても、その条件をクリアすることができなかったもので、これまでどおりの支援だと、路

	線が維持できないということで、匹見線、都茂線の廃止ということになりました。 端的にお伺いしたいところがあります。益田市さんが条件をつけてきた中に、補助金の増額分については、従業員の直接的な処遇改善に充てるというのがついていました。これは、今現在の補助制度の中で、可能だと思われませんか。
事務局	これまで市として、インセンティブ、増額分の20%部分については、処遇改善に使っていただきたいということで、お伝えしていると認識をしております。必ずしも、乗務員の直接的な賃金アップに限るというものではなく、例えば、乗務員の休憩室の改修だとか、そういった処遇改善全般にわたるものについて、利用していただきたいということを申し上げているという認識です。
委員	いただいた文章には、直接的な処遇改善という言葉が明記されていました。それはただ誤認ということでよろしいのでしょうか。補助制度として、そういうことはできないのを、間違っ、書いたということでよろしいのでしょうか。
事務局	これまでも、前回の協議会においても、局長がお答えしておりますが、先ほどのとおり、処遇改善について利用していただきたいということですので、そのように受け取っていただければと思います。
委員	会話の中ですと、やはり文章の方が大事だと思いますので、そういうことであれば、文章の訂正ということが、していただけるということでよろしいですか。
事務局	文書にて、補助金の考え方について、お渡しした部分は、先ほどおっしゃられたとおり、直接的な処遇改善及び、その他人材確保に繋がるもの、ということで、2段書きになっていると思います。ですので、直接的な人件費が可能でなければ、人材確保に繋がるもの。例えば、改修であるとか、様々な修繕であるとか、そういったものも含めて、人材確保に繋がれば、それは、今提出させてもらっている文章の中に盛り込まれていると考えております。 ですので、現在のところ、訂正する予定はございません。
会長	様々ご意見があるかと思いますが、基本的に交通事業者さんと益田市とのやり取りになりますので、この話については別の機会にお願いしたいと思います。
委員	いえ、これは、各地域の代表の方も来られていますので、この場で話をさせていただきたいと思います。 直接的な処遇改善ということで、増加分をそこに充てるっていうことは、今の補助制度の中で、無理です。それは、今までの経費というのは、人件費も含め、修繕費だったり、燃料費だったり、そういったものが積み上がった中での経費を出させていただいて、その中で欠損ということで、補助をいただいているので、補助金が増えた部分を、人件費に充てるということは、鶏か卵かみたいな話ですけど、今の状況の中ではできていません。 その中で、各市町さんは、昨年、少し補助制度を改善して取り組むということで運行

	させていただいております。その中で益田市さんだけが、現在、少ない額で、運行しているという状況になっています。 このままですと、他の市町さんの手前がありますし、うちの会社の経営としてやっていくことができないので、今回の匹見線、都茂線の廃止のみならず、益田市からは、うちの会社も少しずつ手を引いていかざるをえないという状況は、明らかになっていますので、今後も路線廃止や減便がこのままですと出てくる可能性があります。 それはやはり、この地域を代表しておられる皆様にも、ご承知おきいただきたいですし、益田市さんには、やはりこの制度の認識を改めていただいて、早急に制度の改善をしていただきたい、という思いがありますので、この場で。
委員	聞いておりますと、交通事業者さんは、今、石見地域一円をエリアにして、各市町との提携によって、バス運行をされているっていうことですね。そういう中において、各市町村とそれぞれに、契約というか、そういうものを結んでいる。これはそういう意味ですか。益田市の対応が、すごく悪いような感じをずっと受けているんだけど。 そうじゃなくて、どこにも通じるものだったら、各市町村をひとまとめにした、協議会なら協議会の中で、この問題は話していかないと、これから石見地区を活性化させていくために、益田市だけが取り残されたり、益田市以外のところが、逆に取り残されたりするという、飛び飛びのそういう状況が起こったら、石見地域のバス路線は、非常に不安定な状況に陥るんじゃないか。今の話を聞いていて、そんな気がします。 ということでやはり各市町のトップなり、そういう関係者が一堂に会して、交通事業者との、やりとり、契約のあり方っていうのは、今一度見直すというか、改めていくべき方向性の方が先じゃないかと。益田市だけを相手にすると、益田市だけが、取り除けて扱われている、或いは被害を受けている。 そういうふうにとらざるをえないような感じが私はしましたが。いかがでしょうか。
委員	おっしゃられるとおりだと私は思います。この補助制度自体も、島根県さんに音頭を取っていただいて、県内というか石見地方の市町さんと、こういう制度を少し拡充して、これからはバス路線を維持していこうということで、各市町が連携して、制度の拡充をしていただいた中で、益田市さんだけが、付帯条件をつけてこられたので、その条件っていうのは、うちの制度の中で対応しきれない条件なので、今こういう状況になっています。 一会社対益田市という状況じゃなくて、島根県が足並みそろえて、石見地区のバスを守ろうよと言っていた中での話ですので、そういった取り組みを、島根県さん筆頭に取り組んでいただいた中の、こういう状況になっているので、私どもも、益田市さんにもご理解いただいてから、各市町と足並みをそろえていただきたいという思いが一番強いです。
委員	益田市が足並みをそろえていない、ということですか。逆に足並みをそろえている市町村については、皆さん同意して、方向性を一にしておるといふ。

委員	そうですね。
会長	この話はですね、益田市と交通事業者さんとの間で、現在協議中のことでありますので、この辺で置かせていただけたらと思います。
委員	私は、協議をしたという記憶がございません。
委員	交通事業者さんについてですけれども、いわゆる私企業でありまして、益田市の市営バスではない。要するに浜田市営バスでもない。法律がそういう建て付けになっているので、という理屈はあると思うんですけど、私企業である限りは、補助金をもらうというのが前提というところがそもそも、どうかしているんじゃないかと、私は思っています。法律の建て付けがそうなんだから、と交通事業者さんはおっしゃるかもしれませんが、経営状況がそれほど良いとか悪いとかいう場合には、少なくとも年に1回、自分のところの貸借対照表とか損益計算書を公にして、こういうことになっておりますと、なので、大変苦しんでおりますから、いくらほど、この補助金を使わせてください、或いは、手当してくださいとおっしゃるのが筋ではないかと。最初から、補助金をもらうのは当たり前だと、補助金のいろんな付帯条件について、おかしいじゃないかと、益田市だけが言つとるじゃないか、というのは私違うと思っています。 それからもう1つは、発端、根幹は、路線の廃止から始まっている話なんですよ。路線を廃止するっていう話があって、それを市に持ってきて市長と話したら、何とかすると市長がおっしゃった。何とかするとおっしゃったのにこれか、というのをおっしゃったわけですけど、それをやめるという人がおっしゃることじゃないような気がするんです。 それから、路線をやめてほしくなかったら、補助金をもっとあげろ、と。それは、悪い言い方をすると人質を取って、人質を返してほしかったら金を出せ、というのとあんまり変わらないんじゃないかというふうに私は思います。そういう感じがしてならんのです。 ぜひ、年に1回でいいですから、いわゆる収支決算書、損益計算書。それを、貸借対照表も含めて、経営状況について明らかにしていただきたい。 それに税金を使うわけですから。それは、国の税金であり県であり市であり、元はみんなが払っているわけですから。益田市の税金だからとか、県の税金だからとか、そういうのは関係ない。原則一緒なので。 そのところきちんと明らかにした上で、これだけ困っているからっていう、そういうところがまずないと、そうそう、皆さんの理解が得られないと私は思いますけれども、どうでしょうか。
委員	補助金の額の決定につきましては、毎年1回、島根県さん、島根運輸支局、運輸局さんの、ヒアリングを受けております。それで、経費がどれだけかかった、収益がどれだけあった。その中での欠損がこれだけだから、ということで、うちも経費を削減する努力をしながらも、なるべく路線を維持していこうという状況でやっておりますし、数字に関しては、運輸局は

	じめ、チェックを受けておりますので、私どもも、問題はないと思っております。 補助金ありきで、というところもあるのは事実だと思いますけど、この地域で人口減少が進む中で、当社の収支率は今 50%を切っているような状況です。ですので、なかなかバス路線を維持していこうっていうことになりますと、極端な話、今の状況、同じお客様の人数でも、バス運賃を倍にしないと収支は黒字にはならないっていうような状況になっています。なのでやはり、補助金には頼らざるをえない、というところも、一つあります。 現状の補助金でも、欠損補助ということですので、計算上収支での、という状況の取り組みをいただいている中で、おっしゃられましたように私どもも私企業でございます。利益をなるべく確保してから、株主がいるなどという中でやっていかないといけないという事業の中ですので、少しでも、蓄えをしていかないと、コロナの時で、これまで少しずつ積み上げてきた利益っていうものも使い果たしたという状況ですので、またコロナがやってくると、会社自体も守っていけないんじゃないかという、そういった状況ですので。 そういったことも含めまして、少しずつまた蓄えさせていただけるような制度とか、支援をしていただきたいという思いでお願いも今回させていただいたところです。
委員	運輸局と県には説明しているという事ですけれども、それぞれ関係する市町に対して、そういう説明はないんですか。
委員	ヒアリングっていう、補助金の算出方法がいいかっていうのは、県とか運輸局が代表してというか、チェックしていただいておりますけど、そのあとの資料っていうものは、各市町に、全部提出はさせていただいております。
委員	先ほど来ですね、様々な話があったかと思うんですけども。お聞きする限りではですね、交通事業者さんと益田市さんが間をもって、意見交換ですとか、意思疎通が、しっかりできてないんじゃないかと。これが今のような話になっている主な要因じゃないかというふうに考えております。 県としましては、やはり一番は、地域住民の皆様が、このままでは、交通手段がどうなってしまうんだろうかといった、不安感を持たれることがないように、していくということが大事であるというふうに考えております。 そのためにも、まずは、交通事業者さんと、それから益田市さんが直接対話ができる機会を設けていただくということ、こういったことでしっかり、話し合いをしていただくということが必要ではないかというふうに考えております。 益田市さんの方でもこういったことを、ぜひやっていただければと思います。
事務局	補助金については、例えば都茂線の継続であるとか、廃止の見直しといったところも、住民の皆さんからは、声が上がっていたところです。今日は代替案を示させていただきましたけれども、今の状況からいくと、10月1日から運行させるためには、このタイミングで、まずは代替案を整理しておかなければ間に合わない。そういったところも、背景としてはござ

	います。 この間、交通事業者さんとも協議をさせていただきましたが、協議経過から、この補助金の課題につきましては、この整理がつかなければ、他の路線であるとか廃止であるとか、廃止の見直しであるとか、そういったところも、なかなか判断には至らないのではないかと考えておりますので、そういった意味でも、ぜひ、前回の活性化協議会でも申しあげましたけれども、市としては、代表者同士の協議の場、話し合いの場を設置する中で、そこですり合わせを行っていただきたい。細かい部分については、その後、担当者レベル等において整理できるものと思っておりますので、ぜひ、この場ではございますけれども、話し合いの場の設定をよろしくお願いいたしますと考えております。 以上でございます。
4. 閉会	